



「平成27年度 年末年始無災害運動」

“「たぶん」「だろう」に危険が潜む しっかり点検 年末年始”

年末年始無災害運動は、働く人たちが年末年始を無事故で過ごし、明るい新年を迎えることができるようにという趣旨で、昭和46年に始まり、本年度で45回目を迎えるそうです。

一年の締めくくりを笑顔で送り、災害のない明るい新年を迎えるために、「安全最優先」の考え方を基本に、あわただしい時期にこそ、作業前点検の実施、安全な作業方法の確認などを着実に実施しましょう。というのは、中央労働災害協会のホームページからの受け売りですが、全くその通りだと実感します。特に、私たち事業主にとっては、社員とその家族が、“いい一年だったね。”と思ってもらえるには、やっぱり無事故・無災害であることです。

先日もある安全決起大会で、「免許の書き換えの際に、『だろー運転』ではなくて、『かもしれない運転』に、という講習をみんな聞いていると思う。現場作業も全く同じ。安全だろー・・・ではなくて、危険かもしれないと思って作業をするだけで、ずいぶんと違うはず。」と言うお話がありました。

イライラしていると、同じ様にやっているつもりでも、ミスが起きます。逆に良いことがあり、心に余裕がある時は、普段ならイラッとするようなことを笑って許せたりします。人間の脳あるいは心は、簡単に暗示を受けます。だったら、



自分にプラスになるように暗示を掛けましょう。嫌な人と話したり、うまくいかない事があつたり、叱られることがあつた時でも、それを更に強く脳に嫌だと言いつけてしまうと、結局損をするのは自分自身です。嫌なことだからこそ、そんなことで損をしないと気持ちを切り替え、心にゆとりをもって、事に当たれば、きっとトラブルも起きにくくなるでしょう。まずは年度末まで、無事故無災害で！！

無事故で良いお正月を迎えたいですね。

クリスマス

『真っ赤な御鼻の、トナカイさんは、いつもみんなの笑いの♪・・・』子供たちが大好きなクリスマスが近づいてきました。町はイルミネーションが色とりどりにぎやかです。

さて、クリスマスは言わずと知れたキリスト教の行事。では、日本に伝わったのはいつなのでしょう？

知っている方も多い、キリスト教伝来が1549年、日本はまさに戦国時代でした。その3年後にイエズス会が日本人信者を招いて、降誕祭のミサを行ったのが、日本で初めてのクリスマスと言われているそうです。

それから、時代は飛んで、明治33年(1900年)に、明治屋が銀座へ進出し、クリスマス商戦のスタートを切ったと言われています。ですから、今の形のクリスマスは明治の終わり頃に始まり、100年以上になるということなのです。

年々にぎやかになっている感のあるクリスマスですが、世界的にみると、とても静かだそうです。なぜなら、【クリスマスを避けるために行く国ベスト10】(カイクイナ)で、下記のランクです。

- 1位 日本
 - 2位 サウジアラビア
 - 3位 アルジェリア
 - 4~10位、イラン、タイ、ネパール、トルコ、北朝鮮、中国、パナマ
- 日本が1位だなんて、...でも、よく考えると、宗教観の少ない日本ならではかもしれませんね。今度のクリスマス、皆さんはどんな風に過ごしますか？



【今年の漢字】《安》

『ユーキャン新語・流行語大賞《爆買い》』

師走に入り、気持ちも仕事も師走の名の通り忙しい毎日ですが、その12月と言えば、“流行語大賞”と“今年の漢字”が既に定番となりました。

12月上旬に発表される新語・流行語大賞は、1984年にスタートし今年で32回となります。第1回では、【オシンドローム(連続テレビ小説「おしん」からできた造語)】、【くれない族(TBSドラマ「くれない族の反乱」より)】などがありました。覚えている方もいるかもしれません。

そして今年第32回では、【爆買い】、【トリプル】などが選ばれました。流行語大賞は、今年テレビでたくさん聞いた言葉が選ばれるため、テレビをあまり見ない方、新聞党の方にとっては、「そんな言葉が流行ったんだ。」と、改めて知る感があります。(実は私もその口で、初めて聞いた言葉ばかり・・・)

一方、日本語漢字能力検定協会が毎年12月12日漢字の日に発表する、今年の漢字。本年は15日(火)に、清水寺でご住職が大筆を使って立派に書いていらっしゃいました。選ばれた漢字は、《安》でした。安倍総理、安全保障、テロ等安全に対する不安 etc、確かに“安”を良く見る一年でした(私の予測も安でした)。

あなたの心に残った流行語、漢字は何でしたか？

西の心に残った流行語、漢字は何でしたか？

テーマ：『天下三分の計』

西暦207年中国でのこと。一人の男が名もなき青年の家を訪問しました。男の名は劉備。そして、劉備が訪れた青年の名前は孔明と言いました。その際、孔明は劉備からの申し出を断る代わりに、あるアイデアを授けたのでした。

天下三分の計

当時の劉備は天下統一という大志を抱きつつも、何年間もただの一城主でしかも客将という単なる居候の身分でした。孔明はそんな劉備に中国全土を見渡して大きな絵を描きました。北の魏は強大すぎてまともに対抗するのは到底不可能。さらに東の呉も名君が治めていて、これに敵対するのも得策でない。しかし、南と西に目を向けると領地は広いが凡庸な君主ばかりで十分に攻略できる可能性がある。従って、南と西を勢力下に置いて、この2大勢力に対抗できる地盤を築き、魏と呉に対抗していきましょう。有名な天下三分の計です。ここに至って、劉備は自分の進むべき方向が、しっかり定まり見事にアイデア通り南と西を攻略します。そして、その後、蜀の国を興し三国志という物語は完成します。

伝わるアイデア

孔明のアイデアはとても分かりやすく、しかも具体的で劉備に実現可能なものでした。また、三大勢力にのし上がるという目標は君主の劉備だけでなく、彼の部下にも夢と希望を与え、彼らが積極的に動く原動力となったのです。

「アイデアのちから」アイデアが成功するのは、①単純明快である、②意外性がある、③具体的である、④信頼性がある、⑤感情に訴える、⑥物語性があるという6要素を満たしているかどうかなんだそうです。これらを満たしているアイデアは人に伝わり記憶に焼き付き周りの人を動かすことが可能です。

大きく考える

私たちは普段仕事をしていると、仕事を改善するアイデアがどんどん湧いてきます。しかし、こういったアイデアは、えてして目の前の問題を解決する狭い視点のアイデアになりがちです。もちろんこういったアイデアが悪いというわけではありませんし、仕事をよりよくするために必要な事です。しかし、リーダーが考えるべきは、天下三分の計のような、もっともっと広い視点の戦略的なアイデアです。リーダーとは、ジャングルの中で一番高い木に登って全体を見渡して、下に向かって「このジャングルは違うぞ」と叫ぶ人である。というふうにいわれることもあります。つまり、リーダーとは、こうした広い視点のアイデアを生み、周りの人を動かしてドラスティックな変化を生み出す人のことです。

目の前の小さなことばかり解決しようとしていませんか？もし、何かに行き詰まっているなら孔明のように視野を広くして大きく物事を考えてみるといいアイデアが浮かんでくるかもしれません。

頭の体操【1分間で答えよう】

① 1・2・3・4を使って10を作るには、1+2+3+4=10 では、3・4・5・8を全部1回ずつ使って10になる式を作りなさい。※四則演算、カッコもOK。なるべくたくさん作りましょう！

② 四角に漢字1文字を入れてください。上下左右共さちんと意味の通る熟語になります。※珍妙な熟語を無理に作らないように(-_-;)

(1) 紅	(2) 葉
淡 <input type="text"/> 夜	新 <input type="text"/> 食
昼	日

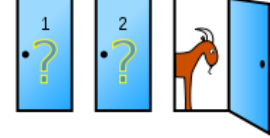
③ 正しいのはどちら？
(1) () 深い絆 (2) 舌鼓 () したつづみ
() 強い絆 () したづつみ

☆当社ホームページに解答を掲載してあります。ある程度の時間、悩んで頭を使った後、解答を見て“スッキリ”してください。URL:<http://katokin.net>

☆モンティホール問題☆

皆さんはモンティホール問題と呼ばれる、確率論を用いた、心理学的に納得しにくい問題を知っていますか？この年末、忘年会の席などで手品代わりに試してみても面白いですよ。

- 命題は次の通りです。
- ①A,B,C 3つのドアの内、一つが当たり。2つがはずれ。
- ②プレーヤーはいずれかのドアを選択する。もちろん当りを目指して。
- ③司会者は残りのドアの内1つを開ける。
- ④それは必ず、はずれのドアである。
- ⑤その上で、プレーヤーはドアを選びなおしてもよい。



※ヤギははずれです。

さあ、この条件であなたならどうしますか？ドアを替える？替えない？それはなぜ？

実際に当たりくじを作って自分で試してみるのも手ですね。それぞれの確立を考えて、いろいろ悩んで下さい。次回、詳しく解説します。お楽しみに！！